

研究課題 乳房トラブルの難治事例における母乳育児の包括的ケアの実践

- 1 **研究機関** 市立千歳市民病院看護部
- 2 **研究責任者
共同研究者** 看護部主幹付主査（助産師外来担当） 渡辺 幸子
看護部第2外来看護科 宮本 典子
- 3 **研究目的** 授乳期の乳房トラブルは、乳腺炎や乳頭損傷などによる疼痛やそれに伴う母乳育児の困難を主訴とし、受診行動につながっている。助産師は、主に乳房マッサージで排乳を促し授乳指導を行って症状の改善へもっていくが、中には難治性で治癒にいたるまでには数週間を要するものもある。そこで、筆者が遭遇した乳房トラブルの難治事例の経過を振り返り、母乳育児における包括的ケアの実践について報告する。
- 4 **研究の背景** 乳房トラブルを主訴とした市立千歳市民病院の受診者は年間約50名程度あり、電話相談を含めると70～80名となっている。2019年に外来での乳腺炎に対する診療報酬が新設され、助産師は支援内容やケアの質向上に取り組み、地域との支援連携の活発化の契機となった。今後も母乳育児支援に対する社会的期待は広がっていくと思われ、助産師は乳房トラブルの日常事例からの学び・研鑽をし、ケアの質向上をはかる必要がある。
- 5 **研究意義** 乳房トラブルは、症状の発言や訴え方の個人差が大きく、介入のタイミングやアセスメントは経験知も判断の助けとなることが多い。本事例研究は、助産師が乳房トラブルの難治事例の治療的介入方法や包括ケアの在り方の参考事例として共有することで、今後の実践に役立てることができる。
- 6 **研究方法**
 - (1) **研究対象者**

2020年4月1日から2023年9月31日までに、乳房トラブルで市立千歳市民病院の産婦人科外来を受診した方を対象とします。
 - (2) **研究実施期間**

本研究の実施許可日から2023年11月27日（予定）
 - (3) **研究方法**

電子カルテに記載のある診療記録から診断・治療・ケア内容（カルテ掲載してある写真・関係者間の支援連携書を含む）を利用します。難治性の経過となった事例を抜粋して、診療経過と考察をケースレポートとしてまとめます。
- 7 **外部提供**

ありません。
- 8 **倫理的配慮**

利用する情報から氏名・住所・受診日等の患者さまを特定できる情報は削除いたします。研究データは電子化して、研究者のパソコンにてパスワード管理をし、研究完了後はデータ抹消の処理を行います。
- 9 **研究成果について**

院内で事例報告および市立千歳市民病院医誌に投稿を予定しておりますが、氏名・住所・受診日等の患者様を特定できる個人情報を使用しません。

10 利益相反について

本研究に関して、開示すべき利益相反はありません。

11 問い合わせ・連絡先

本研究についてご質問がございましたら、下記の連絡先までお問合せください。また、あなたの診療情報が本研究に使用されることについてご了承いただけない場合には、研究対象とはいたしませんので、下記の担当者にお申し出ください。診療情報の使用を断られても、患者さまに不利益が生じることはありません。なお、研究参加拒否の申し出が、すでに研究発表等の後となり、当該措置が困難な場合もございますので、ご了承をお願いします。

〒00066-8850 千歳市北光2丁目1-1 市立千歳市民病院
看護部 助産師外来担当主査 渡辺 幸子 TEL 0123-24-3000(代表)